電波時計
取扱説明書

取扱説明書番号　MA-Q004D

このたび弊社アナログクオーツウオッチをお買い上げいただきありがとうございました。
ご使用の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。この取扱説明書はお手もとに保存のうえ必要に応じてご覧ください。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

●お取り扱いについて

⚠ 警告　防水性能について

＊防水時計の防水性能や機能を必ずご確認いただき、「取扱説明書」に従って正しくご使用ください。（誤った使用は、危険です。）

・非防水時計　：水滴のかかる場所でのご使用はできません。
・3気圧（3BAR）防水時計　：洗顔などはできますが、水中でのご使用はできません。
・5気圧（5BAR）防水時計　：水泳などはできますが、スキンダイビング(素潜り)などにはご使用できません。
・10/20気圧（10/20BAR）防水時計　：スキンダイビングなどはできますが、スキューバダイビングにはご使用できません。
・防水性能 …… 時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図をご参照ください。

りゅうずはきちんと押し込んでご使用ください。

仕様	表示 ケース	表示 文字板	使用例 水のかかる程度の使用。（洗顔、雨等）	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバダイビングに使用。	水滴がついた状態でのりゅうず操作
非防水	—	—	×	×	×	×	×
3気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST または無表示	○	×	×	×	×
5気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST (5BAR) または無表示	○	○	×	×	×
10気圧防水 20気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST (10/20BAR) または無表示	○	○	○	×	×

ご注意

・りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじロック式タイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
・水分のついたままりゅうずの操作をしないでください。
・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活防水以上の機能を要する時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起すことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
・防水時計の場合、海水に浸した時や汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。（蛇口の水を直接かけないで、汲んだ水で洗ってください。）
・時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気の温度が時計内部より低いときは、ガラス面がくもる場合があります。くもりが長時間消えない時は、お買い上げ店でご相談ください。
・一定の防水性能を保つため定期的に（2～3年を目安に）パッキンの交換をしてください。（お買い上げ店でご相談ください。）

⚠ 注意　携帯時の注意

・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分にご注意ください。また、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
・サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。

⚠ 注意　金属バンドのお取り扱いについて

・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠ 注意　電池のお取り扱いについて

・幼児の手が届かない所に置いてください。
・万一電池を飲み込んだ場合には直ちに医師と相談して治療を受けてください。

⚠ 注意　電池交換について

・電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となることがあります。早めに電池交換してください。電池交換の際は必ず指定電池をご使用ください。

⚠ 注意　かぶれについて

・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。また、皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起すことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
・バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。（時々はりゅうず通常位置のままでりゅうずを空回りさせてゴミ、汚れを落としてください。）
・かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐ医師に相談してください。
（かぶれの原因）金属、皮革アレルギー、時計本体およびバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。

〈時計のお手入れ方法〉
・ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
・皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。

ご注意

温度について
・−10℃～＋60℃から外れた温度下では機能低下や、停止することがあります。
・直射日光にさらしたり、炎天下の車内など高温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり、電池寿命が短くなります。
・屋外など、低温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり電池寿命が短くなります。

磁気について
・磁石には近づけないでください。磁気健康機具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気に近づけると正しい時刻を表示しません。この場合は磁気から離して時刻修正をし直してください。

静電気について
・クオーツウオッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示がずれることがありますのでご注意ください。

ショックについて
・床面に落とすなどの激しいショックはあたえないでください。

化学薬品・ガス・水銀について
・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

保管について
・長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管ください。

お買上げいただいた時計についている電池について
・この電池は、工場で組立時に機能、性能を確認する為のモニター用電池です。お買上後、所定の年数に満たないうちに寿命が切れてしまう事がありますのでご了承ください。
※電池は、保証外です。保証期間内であっても交換は有料となります。

製品仕様　FT72

1.特　　徴：日本長波標準電波（JJY 40およびJJY 60）を2局自動切替受信し、時刻を自動修正できるアナログクオーツ電波時計
2.基 本 機 能：時 刻 表 示 ／時･分･秒
3.付 加 機 能：受信結果確認機能
午前・午後表示機能
電波受信による時刻自動修正機能（定時受信・強制受信）
受信局自動選択機能（JJY 40およびJJY 60）
2秒運針による電池切れ予告機能
4.時 間 精 度：［電波受信ができない場合］
平均月差±20秒以内（常温携帯+5℃～+35℃）
5.受 信 機 能：定時受信・強制受信
6.受 信 電 波：日本長波標準電波
福島局（周波数40KHz：JJY 40）
九州局（周波数60KHz：JJY 60）
7.定時受信時刻：1日最大2回
2：00（AM）／4：00（AM）
8.受信待受時間：最短約1分／最長約17分（定時・強制受信共通）
9.使 用 電 池：CR1620（リチウム電池　1個）
10.電 池 寿 命：約10年（定時受信を1日1回2分／強制受信を1週間に1回2分使用の場合）
※お客様の電波受信状態によっては、所定の電池寿命に満たない場合があります。
11.電池切れ予告機能：2秒運針～電池切れ　　最短で約1ヶ月

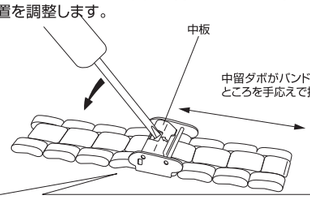
バンド調整方法

⚠ 注意

●バンド調整について
・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
・バンド調整後不要になったピン、コマ等は危険ですので、そのまま放置しないで安全な場所に保管してください。
・作業を行うときは、けがや事故防止のため十分注意してください。（万一ケガ等された場合、メーカーとして責任は負いかねます）

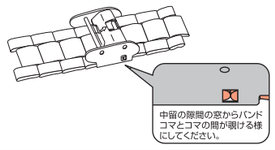
スライド式フリーアジャストバンド（中留ダボの形状が2種類あります。）

① マイナスドライバーの様なもので中板を持ち上げます。腕の太さに合う様にスライドさせ、位置を調整します。

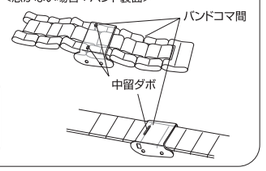


⚠ 注意　中板を固定する時は、中留ダボと、バントコマの隙間を合わせてください。中留ダボがバンドコマの隙間に入らないとはまりません。無理に中板を戻すと破損する恐れがあります。

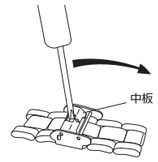
<中留めに窓がある場合>



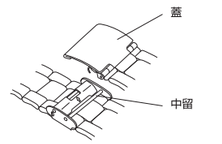
<窓がない場合：バンド裏面>



② マイナスドライバーの様なもので中板を下げます。

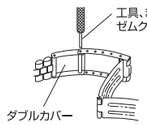


③ 留め金カバーを中留に引掛けてから留め金カバーの蓋をしてください。



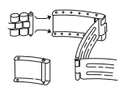
三ツ折バックル方式（ダブルカバー付）

① 長くするとき



ダブルカバーを三ツ折カバーからはずして、再び三ツ折カバーの適合した長さの位置に取り付けてください。

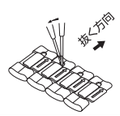
② 短くするとき



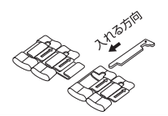
ダブルカバーを取りはずして、三ツ折カバーの適合した位置に取り付けてください。

板バネ方式

① バンド裏面のアジャスト穴にドライバー等を入れてバンド刻印矢印方向にピンを抜いてください。



② 不必要なコマを取り外した後、ピンを抜いた方向の状態で、ピンを入れ戻してください。

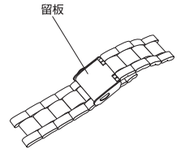


複数ジュエリーバックル方式　バンドコマ（1コマずつ計2コマ）を着脱する事により長さの調整が可能です。

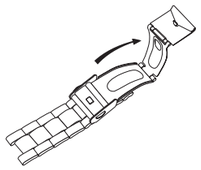
三ツ折フリーアジャストバンド

①

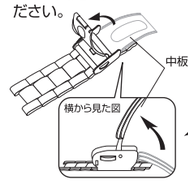
② 両プッシュ中留を両サイドから押して留板を開きます。



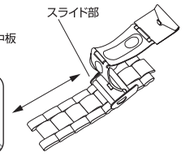
③ 図のように開きます。



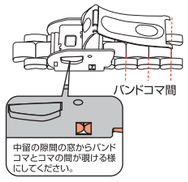
④ 中板は矢印方向に起こして固定を外してください。



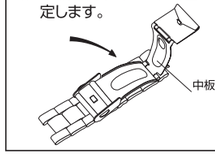
⑤ バンドをスライドさせ最適な位置に調整します。



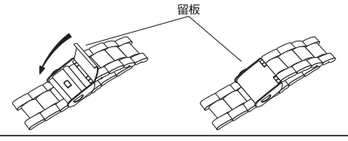
⑥ 中留の隙間の真ん中にバンドコマ間が入る様に必ず合わせてください。



⑦ 中板を倒してバンドを固定します。

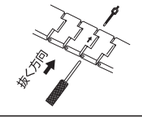


⑧ カッチと音がするまで留板を押して固定してください。

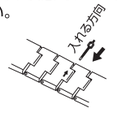


割ピン方式

① ピンをバンド裏面の矢印方向にそってドライバーの様なもので押し出します。



② 不必要なコマを取り外した後、ピンを抜いた方向の状態で、ピンを入れ戻してください。

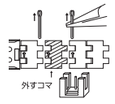


割ピン方式　（ピン抜き台のある場合）

① 付属のピン抜き台をバンド部調節穴に差し込み、バンドを上から押しつけ、バンドに組みこまれているヘアーピンを押し出します。

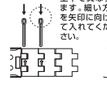
※必ず矢印の方向へ抜いてください。

② 外したいコマの両サイドのヘアーピンを抜き、バンドをつめます。

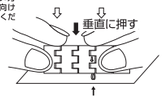


※途中からラジオペンチ等で挟んで、ピンをまっすぐに引き抜いてください。

③ 抜いたヘアーピンのうち1本を使い、図の方向に差し込みます。



④ 次にバンドを上下逆にして平らな硬い台に押しつけ、ヘアーピンを差し込んでください。ヘアーピンは、確実に中まで押し込んでください。



保証とアフターサービスについて

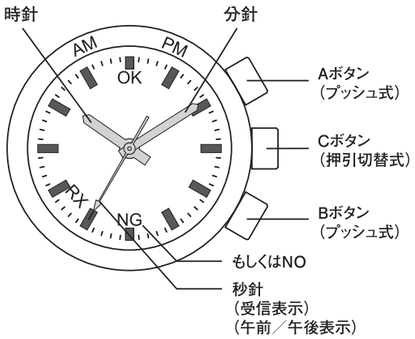
①修理のご依頼は原則としてお買い上げ店に保証書添付の上ご持参ください。
②当社は時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ガラス、側、バンド、文字板、針などの外装部品につきましては、外観の異なる代替部品を使用させていただく事がありますので、ご了承ください。
③保証期間を過ぎたものの修理については、有償にて申し受けます。また修理可能期間につきましては、ご使用の状態でいちじるしく異なりますが、部品保有法定期間に準じます。
④ご贈答、ご転居によりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、下記シチズン時計(株) QQお客様相談室へ保証書を添えてご郵送またはご持参ください。その場合の諸掛りはお客様のご負担となります。
※ご郵送の場合は紛失などを防ぐため簡易書留をご利用ください。

サービス窓口：QQお客様相談室

TEL.	0120-977-319
受付時間	10～12時／13～16時 月～金（祝日、年末年始を除く）
メールアドレス	qqsupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp

製造発売元　シチズン時計株式会社 QQ事業部

各部の名称



表示説明	
OK	受信成功
NG NO	受信失敗
RX (RECIVING)	受信中
AM	午前
PM	午後

電波時計について

●電波時計とは

電波時計とは時間情報をのせてある長波標準電波を受信し、時刻表示を修正する時計です。

標準電波は、日本の時刻のもとになるもので、セシウム原子時計により創られ、電波送信所より送信されております。電波時計は通常クオーツにより駆動しておりますが、約10万年に1秒という超高精度の時刻情報を毎日受信し、時計の表示時刻を修正することで、いつでも正しい時刻を得ることができます。

●標準電波について

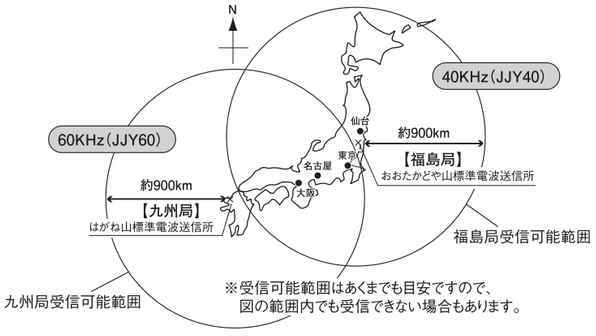
標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）が運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。詳しい情報は日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp/

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

●電波送信所について

標準電波は以下の2ケ所より送信されています。



●受信範囲の目安

この時計は福島局および九州局の両局の電波を受信可能です。受信可能範囲としては両局の電波送信所からのそれぞれ距離が900kmが目安です。ただ、これはあくまでも目安であり、その他の要因（周辺の地形、構造物、気象条件など）で900km以内でも受信できない場合がありますのでご了承ください。

●受信について

この時計は、操作なしに自動的に受信を開始する「定時受信」とボタンの操作によって実行される「強制受信」とがあります。受信時間はおおよそ1分～17分です。その間は針が特別な動きを行いますが20分以内には通常の運針に戻ります。

・定時受信

毎日時計表示が下記時刻になると自動的に受信を開始します。
1日の間に受信が成功するまで最大2回行います。
〈定時受信開始時間〉
2：00（深夜）　4：00（深夜）

・強制受信

Bボタン（4時位置）を長押しすることで実行されます。
詳細は「③強制受信」を参照ください。

受信環境について

受信の場合は、以下のことに注意して行ってください。

●電波送信所からの距離

電波送信所から送信された電波は距離が遠くなるにつれて弱くなります。

●電波遮蔽物

付近に金属等の遮蔽物があると、電波を反射・吸収させるため、受信がしにくくなります。

鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下
車、電車、飛行機の中

●ノイズ発生物

付近に強いノイズを発生させているものがある場合、電波を受信するのが難しくなります。

高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）、変電所の近く
通信中の携帯電話の近く
テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やＯＡ機器の近く

●アンテナの向き

この時計には、ケース内部の6時位置に電波受信用のアンテナが組み込まれています。
上手に受信するためにはこのアンテナを電波送信所の方向に向けて受信するのが理想です。

●時計の状態

受信中はなるべく時計を動かさないようにしてください。動かしながら行うと、安定した受信ができなくなります。

●温度環境

極端に高温や低温の場所では受信がしにくくなります。

●その他の影響要素

気象条件・地形によっても結果は多少異なります。

操作方法

①受信結果の確認

最新の受信結果（24時間以内）を確認することができます。**Bボタン**を押します。

受信している場合

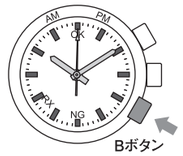
秒針が12時位置（ＯＫ）まで移動し、停止します。
その後、元の時刻表示に戻ります。（秒針が動き出すまでに最大約１分かかります）

受信できていない場合

秒針が6時位置（ＮＧもしくはNO）まで移動し、停止します。
その後、元の時刻表示に戻ります。（秒針が動き出すまでに最大約１分かかります）

※また、下記の場合にもＮＧもしくはNO表示となります。

・強制受信で受信失敗している場合
・**Cボタン**を引く操作を行った場合



②AM／PMの確認

午前／午後を確認することができます。**Aボタン**を押します。

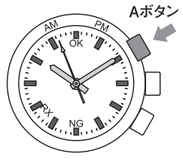
午前の場合

秒針がＡＭで停止します。
その後、元の時刻表示に戻ります。
（秒針が動き出すまでに最大約1分かかります）

午後の場合

秒針がＰＭで停止します。
その後、元の時刻表示に戻ります。
（秒針が動き出すまでに最大約1分かかります）

※基準位置の初期設定を行った場合は**Aボタン**を押しても表示はしません。

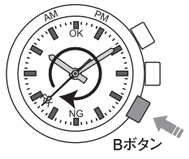


③強制受信

1.**Bボタン**を3秒以上長押しをします。
秒針が早送りされ、前回受信結果（ＯＫまたはＮＧもしくはNO）で一度停止してからさらに移動し、ＲＸ位置で停止します。これで受信開始となります。

2.受信中
秒針がRX位置に停止した後、早送りされて、再度、RX位置に戻ります。受信は約1分～17分かかります。

※受信中に**Bボタン**を押すと受信がキャンセルされます。



3.受信結果表示
強制受信の結果を表示します。
ＲＸからＯＫ（受信できた場合）またＮＧＮＧもしくはNO（受信できなかった場合）へ移動し、停止します。

4.時刻表示へ復帰
受信できた場合は修正された時刻から１秒運針をはじめます。
受信できなかった場合は元の時刻表示に戻り、１秒運針をはじめます。

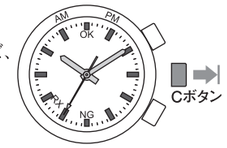
6分以上時計が進んでいる場合：その時刻へ針を早送りして移動
6分未満時計が進んでいる場合：その時刻になるまで停止して待つ
時計が遅れている場合：その時刻へ針を早送りして移動

※どうしても受信できない場合は、お手数ですが、「④手動での時刻合わせ」を行ってください。

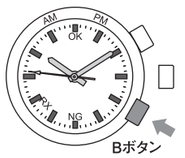
④手動での時刻合わせ

電波受信ができない場合は以下の方法で、時刻合わせください。

1.**Cボタン**を引く
秒針が停止します。
※何の操作も行わないで**Cボタン**を押し戻せば、元の時刻表示に戻ります。



2.**Bボタン**を使って時刻を合わせます。
1回押すと1秒進みます。長押しをすると秒針が早送りされます。早送りをとめるにはもう一度**Bボタン**を押します。
※針は時計回り方向にしか回りませんので、合わせる時間の直前からは1秒送りを使って慎重に合わせてください。



3.時報に合わせて**Cボタン**を押し戻します。
押し込んだと同時に秒針がスタートします。

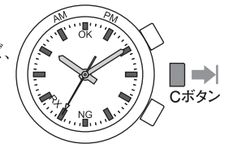
※この時計は24時間表示ですので、午前／午後の表示を間違えないよう修正してください。

⑤基準位置の確認、合わせ方（基準位置は12時00分00秒）

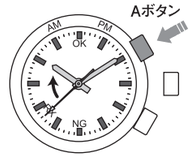
基準位置とは、時計内部のICが記憶している12時00分00秒のときの針の位置です。通常、この基準位置では針も12時00分00秒を表示します。ただし、電池交換や時計に強い衝撃を加えられたときや、静電気の影響等でICの記憶している位置と、実際の針の位置がズレる事があります。基準位置がズレていると受信しても正しい時刻を表示しませんので合わせ直してください。

※この作業は時計が正しい表示をしている場合は行わないでください。
※電池交換後は必ず基準位置合わせを行ってください。

1.**Cボタン**を引く
秒針が停止します。
※何の操作も行わないで**Cボタン**を押し戻せば、元の時刻表示に戻ります。



2.**Aボタン**を5秒以上長押しをします。
秒針が早送りをはじめる

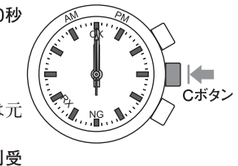


3.秒針が基準位置で停止する。

A.基準位置（針の停止位置）が12時00分00秒だった場合

→針の基準位置は正しいです。

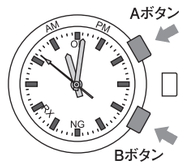
1）**Cボタン**を押し戻してください。針は元の時刻表示に戻ります。
2）時刻が合っていない場合は「③強制受信」を行ってください。



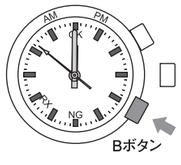
B.基準位置（針の停止位置）が12時00分00秒以外だった場合

→針の基準位置がずれてます。再設定が必要です。

1）基準位置の初期設定
Aボタンと**Bボタン**を同時に約1秒間押してください。（**Aボタン**を押しながら**Bボタン**を押すことをお勧めいたします。）これにより基準位置や受信記録が初期化されます。
※ 基準位置の初期設定を行った場合は**Aボタン**を押しても**AM/PM**表示はしません。

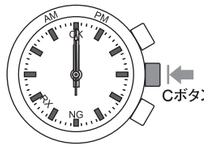


2）**Bボタン**を使って基準位置を12時00分00秒に合わせます。
1回押すと1秒進みます。長押しをすると秒針が早送りされます。早送りをとめるにはもう一度**Bボタン**を押します。
※ 針は時計回り方向にしか回りませんので、12時直前からは1秒送りを使って慎重に合わせてください。



3）**Cボタン**を押し戻します。
押し込んだと同時に針が元の時間に戻り秒針が１秒運針をはじめます。

4）時刻修正
「③強制受信」を行って時刻修正してください。



こんなときは

●正確な時刻を表示しない。

①受信はできてますか？
Bボタンを押して受信結果を確認ください。
受信ＮＧもしくはNOの場合は時刻修正はされてません。長いこと受信できないと時計はクオーツの精度（月差±20秒）で働きますので、ズレを生じます。受信に適する環境で受信を行ってください。それでも受信できない場合は、お手数ですが、「④手動での時刻合わせ」を参照の上、時刻を修正してください。
②針の基準位置はあってますか？
「⑤基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を確認ください。針の基準位置が正しくなかった場合は針の基準位置を修正してください。

●針がとまったまま動かない。

①**Cボタン**が引き出されたままになってませんか？
Cボタンを押し戻して時刻表示モードにしてください。しばらくすると針は動き出します。
②秒針がRX位置に停止している場合は、受信中の可能性があります。
受信がおわるまで約20分待って再度針状態を確認ください。
③電池が切れている。
電池交換を行ってください。電池交換後は必ず「⑤基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●受信が成功しない。

①受信環境が良くないと思われます。
受信環境について を参照の上、受信環境を改善ください。
②針の基準位置が合っていない場合があります。
「⑤基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●受信確認の際、針がずれている。

①針の基準位置が合っていません。
「⑤基準位置の確認、合わせ方」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●秒針が2秒運針をしている。

①電池切れの警告をしてます。
時計が止まる前に電池を交換することをお勧めいたします。